

令和4年度 稲美町行財政改革推進委員会議事録

- 1 日 時 令和5年2月3日(金) 19時30分～21時30分
- 2 場 所 稲美町立コミュニティセンターホール(役場4階)
- 3 出席者
 - (1) 委 員 桃宇委員、藤本委員、田中委員、佐藤委員、中本委員、井上委員、大村委員、増本委員、森井委員、大村委員
 - (2) 事務局 井上経営政策部長、赤松企画課長、辻本政策・デジタル推進係長、明神主事
- 4 会議の概要
 1. 開会
 2. あいさつ
 3. 委員長・副委員長の選出について
 4. 協議事項
 - (1) 稲美町の財政状況の説明
 - (2) 行財政改革の実施状況について
 5. その他
 6. 閉会

5 議事録

【1.開会】

資料の確認

【2.あいさつ】

〔井上経営政策部長〕

稲美町の行財政改革は、国が20年ほど前に三位一体改革が叫ばれたときに作成した計画を、その当時作った大綱をもとに、行財政改革を進めている。いま第2期目この計画は、その当時の厳しい状況の行財政改革の内容である。最近は行政に対する行財政改革をあまり叫ばれなくなっている。

国ではこども家庭庁やデジタル庁ができ、少子化対策や行政のデジタル化が叫ばれている。そのようなことを考慮しながら、今後必ずやってくる人口減少に対応していきたい。

2040年には稲美町の人口が3分の2に減ると予想しており、労働人口が減り、その影響で税収が減ってくるということが予想される。未来のことを完全に無視して、現在のことを進めるわけにもいかないため、財政計画を立てながら、どういう風に行財政改革と向き合っていくのか、改めて考えていきたい。このまま稲美町がありつづけていくためにどうしたらいいかお知恵を拝借しながら進めていきたい。

3. 委員長・副委員長の選出について

〔副委員長あいさつ〕

今まで、行財政改革に対して、無関心だったのですが、今回参加し、行財政改革は重要だと思っている。昔、夕張で行財政改革がうまくいかなければ、福祉などが削られていたことがあったので、やっぱり重要な対策だなと思っている。

活発な意見いただいて、少しでも行財政改革がうまくいけばと思っている。

4. 協議事項

(1) 稲美町の財政状況の説明

(2) 行財政改革の実施状況について

〔事務局〕 稲美町の財政状況・行財政改革の実施状況の説明

〔委員〕 敬老会式典の見直しのため、去年も今年も記念品が送付されてきたが、評判はよくないため、稲美町発行の商品券にすれば、経費の節約につながるのではないか。

〔事務局〕 敬老会の令和4年度のお祝いの品を送らせていただいて、担当課の方にはいろんな方からそういったご意見が届いていると思われる。この場で今後について議論するのは難しいが、意見を聞きながら担当課とその事業なりを再度検討してく。こちらの方からも会議でご意見が出たとお伝えさせていただく。

〔委員〕 介護認定の適正化というのは介護認定をできるだけ厳しくしていこうという意味合いで捉えればいいのか。

〔事務局〕 介護認定の適正化については厳しく認定をするという意味ではなく、その

方にあった適切な介護の認定の度合いを出させていただくという意味である。

〔委員〕 女性幹部の登用の促進について、女性幹部の登用の推進を図るということでは、実際の数値が上がってきてないのはどういうことなのか。

〔事務局〕 部長の女性の職はいまだに稲美町にはいない。課長職、係長には複数名いる。

〔委員〕 いきいき広場、いきいきサロンの参加人数が下がってきている。コロナの関係で中止されたことも要因かと思うが、不安である。

〔事務局〕 いきいき広場やいきいきサロンについては、団塊の世代の方が利用する年代となり、自分の趣味が多趣味で地域の集まりよりもご自分で活動に過ごされている方が多いと思われるため、利用率は減少傾向になっていると考える。

この事業によって、稲美町の介護認定の人数や元気な高齢者を増やしていくことができているので、引き続き事業は続けていきたい。

〔委員〕 職員提案について、民間企業に比べると提案数が圧倒的に少ない。百数十名の職員の中でこれだけの提案件数では、とてもじゃないけど改革は難しいのではないかと思う。

〔事務局〕 職員提案については、ルールとして、自分の担当している業務にはついては提案できない。担当の業務に関しては、稲美町は風通しがよく自由に若い職員でも提案できるため、実際数は多い。担当外での提案となるため、ご理解いただきたい。

〔委員〕 職員の提案の件数が少ないというところで、提案した場合の特賞、賞与はどの程度のようなものか。

〔事務局〕 採用された方は、町長より表彰される。副賞については、出しにくい。町長からのお褒めのことばいただきモチベーションを上げていこうということにしている。

〔委員〕 表彰では、モチベーションあがらないのでは。町長の表彰もいいけど、助

かるようなものができればもっと力が入ると思う。自分の担当の仕事で改革案を出さないと提案が出ない。人のやってることの改革案を出したら逆に叱られるのでは。

〔事務局〕 自分の仕事は、仕事をしながら提案しているということになっている。職員提案で提案するなら職場で提案してくださいという意味で外している。自分の仕事については、毎年、新規事業に提案を出すことを行っている。それとは別にこういった制度をもうけている。

〔委員〕 下水道使用料の収納率が、令和3年は102.6%となっているが、これはおそらく前年度、前々年度、何年か前の未収金が回収されたのではないかと思うのだが、これをこの年の収納率にあげてしまうと、その未収金の回収した年度は90何パーセントでそのままいくのか、そういうことが気がりである。

〔事務局〕 令和3年度については、銀行からの振り込みの期限の関係で、前年度の債務として受けることができなかったということでこういう表記となる。令和2年度・令和3年度の2年間での平均の収納率としては99.5%ということになっているので、ご了承いただきたい。

〔委員〕 職員の給与について、今から春闘がはじまろうとしている。物価上昇率に似合うような賃金をの上昇率を5%目標にしようというような考え方。経営者側もなんとか賃上げしないといけないと言われている。そういう中で職員の給料も当然それに似合ったような給料水準の引きあげを当然考えないといけないと思っている。

〔事務局〕 職員の給料水準は、法的に国等からの勧告に基づいて、決まっている。民間の給料水準があがっていけば、それには少し遅れるが、公務員の職員給料も上がっていくという制度体制をとっていつている。国の給料表を使っているので、このたび言われているように国の給料改革はあると思う。それについては遅れることなく準じていきたい。

〔委員〕 低燃費で環境対応の公用車に更新すると書かれているが、思いきって電気自動車に変えていくということも一つの対策ではないか。他の自治体では自動車会社とタイアップして協定を結んで災害時に電気自動車を活用する話もある。稲美町には、軽バンがたくさんあるため軽バンを電気自動車に順

次取り替えていけばよいのではと思う。

〔事務局〕 導入に踏み切れていない理由は、費用がかさんでしまうという点である。一番難点なのは走行距離。最近ではかなり距離が伸びてきているが、冬場になると言われている距離の半分程度にしかいかない。導入している市町に聞いても、冬場は走行距離が少ないと回答があった。また、充電場所についても問題があり、導入にいたってない。今後は検討していく必要があると思っている。

〔委員〕 いきいき広場の件だが、減ってきている理由は、コロナ関係で食事ができないことと、高齢になり足腰が弱っているため自分で歩いてその会館に来られないことも理由の一つ。自分で歩いて来ることができる方が対象となっているため送迎ができない。自分でタクシーを呼んで来ているという現状。その壁が負担がとて大きくて減っていく要因。なんとか方法ははないのか。

〔事務局〕 コロナで食事ができないのは、この5月で見直しということなのでそのあたりも（食事）見直していくので、いましばらく辛抱してもらいたい。検討していく。

広場まで行くことができない人には、社協の送迎サービスがあるはずなので、送迎サービスを希望していただけたら使っていただけたと思う。問題ではあると認識している。

〔委員〕 普通のタクシーに電話をしても、なかなか来ていただけない。

〔事務局〕 乗合タクシーを企画課でおこなっている。お声をいただけたら、タクシー会社に連絡しておく。

〔委員〕 3人や4人くらいタクシーを呼んだらなかなかタクシーがこない。あと30分くらい待ってくださいとか、そういった現状。最終的にはいきいき広場の健康支援員さんが送りますとなる。もう一度それを調査していただきたい。

〔委員〕 いなみっこ広場に、こどもが勉強できるスペースがあると聞いて行ったが、小さい子たちがたくさんいて、実際勉強できるスペースは廊下みたいなどころだった。もう少しいろんな方が使用できると聞いていたので、スペース

があればいいということではなく、実用的なスペースを作っていただきたい。ご年配の方にもきていただいて、子どもたちと触れ合ってもらおうとかもあるのか。

〔事務局〕 コンセプトは、小さなお子さんの子育てスペースになっていて、右側は福祉会館エリアのスペースになっている。その中で小さなお子さんご年配の方とのふれあいもある。また、図書館のような学習スペースは確かにないので、ご意見はこちらの方からまた施設に伝える。

〔委員〕 コロナの影響もあって、物価がこれからどんどん上がるであろう。住民の収入も上も下もあって、苦しむ住民も出てくる。町として、物価に高騰に対しての対応はどうするのか。

〔事務局〕 物価高騰対策は、今後大きな課題になってくると思う。
令和4年度については、paypayの20%ポイント還元をはじめて実施した。
給食費に対しても、子どもたちに同じ物、同じ食材を使ってできるだけ稲美町のおいしい給食を守り、町から支援をしていきながら、家庭の負担を同じまま食べてもらえるよう対策をしている。
また、農業者の方の肥料の費用も上がってきているので、支援もさせていただいた。
電気代についても高騰しているので、国、県の動向を確認しながら、課題をどう解決していくか考えていきたい

〔委員〕 粗大ゴミの有料化が、それがいつ頃なのか。それをすることの収入。稲美町は無料。神戸・明石どこでも有料。そのあたりのことをどうお考えなのか。

〔事務局〕 粗大ゴミの有料化は、近隣の加古川市も有料化になり検討はしている。しかし、稲美町は当分の間無料でいくと思う。

〔委員〕 行財政改革推進委員会は、年に一回あるだけか。たった年一回だけでは、どのような視点で考えればよいかわからない。

〔事務局〕 大綱は10年計画、実施計画は5年で作っているため、おそらく令和6年までは、このままでいくのではないかと思う。令和6年のときに、さらに大綱を見直す中で、また何回もみなさんのご意見をいただきながら、今後10

年を見据えた計画を考えることになると思われる。

その頃には、いまの内容と大きく変わって、今後、財政的にしぼっていくのではなく、どうすれば現状を維持できるか、人口が減っていく中でいまのサービスを維持できるかという議論になってくる。

〔委員〕 年一回だけでは、何の役にも立たないと思っている。みなさんの意見をもっともっと聞きたい。もっともっとみなさんの意見が聞けたらよくなると思う。

〔委員〕 最初に委員になったとき、出欠の案内や資料が届くのが当日だったが、今回は事前に送付いただき、読み込む時間をいただけたので感謝する。

職員の能力向上について、実施した研修の発表の場はあるのか。また、令和2年度から令和3年度にかけて研修の人数が増えている理由は。

仕事をする上で上下関係も大切だが、周りの人間関係も大切なので横の風通しもよくなるような研修も進めて、マネジメントの研修も行われているのか。

研修内容はどのように決めているのか気になった。

人事評価は、人を人が評価することは難しいが、合う合わないという好みで筆で人が殺されないように、評価されないようにと思う。

〔事務局〕 職員の能力向上については、力を入れている。稲美町役場内で研修を行うのもひとつだが、できるだけ外部にでていき研修を行い他市町の職員と交流を図っている。内容については、初任職員の研修、中堅職員の研修、パソコンの研修であったり、多種多様の研修があり、総務課の人事の方で順番にいくようにしている。発表の場は、コロナになってからなかなかできていない。コロナ前は、職員何名かでチームをつくって、町長や幹部の前で提案を発表していたときもある。研修の回数が増えているのは、年度によって開催される回数も違うが、一つの要因としてリモート研修の増加が影響していると考えられる。

人事評価については、自主申告シートにより、受けてみたい研修や仕事内容について希望をとっている。シートを提出するかは任意だが、提出された場合は人事係が適宜配慮をしながら職員の能力向上につとめている。

また、当然人間関係は大切なので、人事評価において筆で人を殺すようなことがない評価の方法をできるだけ取り入れながら、上司とのコミュニケーションがはかれるように、どういった理由でこのような評価をしましたという面接を必ず行っている。また、部下から上司を評価する仕組みを作り

ながら、上からだけではなく下からも評価される。そんな仕組みを作りながらお互いにどういう評価をしているのかというところで人事評価している。

〔委員〕 わたしの職場では、研修報告の書類提出があるが。

〔事務局〕 必ず研修にいったあと五日間以内に提出するようになっている。
五日間のうちにとすることで、決めており、どんな簡単な報告の書類であっても副町長までみていただくようになっている。

〔委員〕 いなみブランドについて全く会議していない。いろんな会に参加しているが、コロナもあり終了もせず宙に浮いたままの状況で、会議が開かれていないものもあると思うので、きちんと進めていってもらいたい。
稲美町の特産品を決めるような、大事な会議が動いていないのはどうなのかと思う。

〔委員〕 いなみブランドの会は、今週の初めに何年かぶりに開かれた。
日の出みりんの料理酒、マイマイ工房のむぎみそなどが提案されていた。まだ認定されていないが、会議はしている。

〔委員〕 最近また農業が流行って就農されている方、新しく就農されている方がたくさんいるが、継続している農家は少ないと思う。県の事業では5年間の補助が受けることができるが、実際に動いているのか、しっかり調査いただけたらと思う。
また、新規就農者が増えることで、遊休農地も減るというのはありがたいことではあるが、年をとって続けることができない農家も増えてきている。営農組合もそうだが、広域営農の立ち上げはどうか。

〔事務局〕 ご意見をいただいたように、5年間だけではなくそれ以降も継続していくことが大事になる。町としても何ができるのか、今回の意見を担当課にも伝えていきたい。
広域営農の立ち上げですが、町長の公約の中にもあった。営農組合の担い手も高齢化が進んで減ってきている。ひとつの方向性を町としても考えていくことが必要なのかなと思う。

〔委員〕 ふれあいまつりがコロナで止まっているので、開催してほしい。大変なのはわかるが、地域のふれあい、各自治体ではやっているが、稲美町として大

きな行事を再開してもいいのでは。

〔事務局〕 ふれあいまつり開催してほしいということについて、ふれあいまつりだけに関わらず、コロナの分類も見直されていくなかで、魅力的なイベントをどういった形で町として開催していくのか。また支援していくのか引き続き考えていく。

〔委員〕 ごみの回収について、エコクリーンピアに持っていつているが、エコクリーンピアでの回収が始まる前にごみを減らそうとしていたが、いまはどうなっているのか。

いまは、なにもかも一緒にごみを出してもいいとなっているので、ごみを減らそうという意識が薄れてしまっているのではないかと。以前は、生活環境課の方でもごみの減量について一生懸命推進していたが、それもなくなって、住民のボランティアもいない。

〔事務局〕 ごみの回収に関しては、高砂の方にごみを受け入れていただいて一緒に頑張って取り組んでいくということで本格稼働がはじまっている。

そこに受け入れていただくときに、それぞれの市町の可燃ごみの搬入の上限の目標値があり、稲美町はその目標値を下回れず、それに対して1年2年呼びかけをさせていただいてごみの減量化に取り組んでいただいた。そのかいあって高砂に受け入れがはじまるまでには目標値は達成できた。

分別については、新しい施設ではプラスチックなどもあわせて焼却できるようになり、分別の必要がなくなった。逆にプラスチックから出る熱を利用することができるようになった。施設の近代化、最新の施設になってそういったことで分別が必要なくなった。ただ分別の必要がなくなったからごみの量がどんどん増加すると、もともとの稲美町の排出量を超えてしまう。ごみの減量化ということでは、引き続きこれからも取り組んでいただけるように担当の課からも考えていってほしい。

〔委員〕 空き家対策について、人口が減少してくるとどうしても一人住まいの人が増えてきて、その方が亡くなると空き家も増える。いろいろ自治体の方で問題が発生していると思うが、そのへんの取り組みは令和3年はなかったのか。そんなに問題がないということなのか。

〔事務局〕 資料に記載のある0件は、令和3年度、空き家バンクの新規の登録件数と契約件数が0件だったので0とさせていただいた。実際、空き家につい

ては役場にいろいろな意見をいただいている。空き家対策については企画課が担当しているが、苦情相談は生活環境課、空き家の活用は都市計画課と、それぞれ担当をわけて行っている。

〔委員〕 子どもの出生率を上げるためになにをしていますか？

〔事務局〕 稲美町として単独では、ミルクやおむつを買っていただくために出産時に5万円の商品券を支給。この近隣では最高額。今年に限っては、国から10万円の支給もある。

〔委員〕 出産時の入院費が上がって出産費が上がってる。出産後が課題。それが解決しないと人口が増えていかない。

〔事務局〕 出産後の稲美町としては、高校まで医療費の無料化。よく明石が事例に出されるが、明石がやっているようなことは稲美町もしている。稲美町の方がよいところもある。そのあたりはPR不足。

5. その他

〔事務局〕 ささまざまな課題についてご協議いただき、ありがとうございました。この後の予定については、本日いただいた意見を元に手直しを行い、町の推進本部の方で本年度のまとめをしていく。その後速やかに情報公開コーナー、町ホームページで公開を行う。

また、会議の議事録の要旨を作成するので、了承願いたい。

6. 閉会

〔副委員長〕 本日はお忙しい中、お疲れ様でした。財政の健全化と住みやすさは相反する部分がある。町が少しでも良い方向に向かうように意見を出していきたい。